

環境報告書 2012

九州大学芸術工学部



目次

○トップメッセージ	1
○部局概要	2
○環境マネジメント体制	3
○環境活動と目標	4
○環境関連の授業科目数	5
○環境に関する研究組織	6
○環境月間行事	7
○資源、エネルギー、廃棄物関係のデータ	8
○資源、エネルギー関係のグラフ	9

トップメッセージ



昨年3月の東日本大震災から二度目の夏を迎えます。東日本の太平洋岸に位置する市町村では、復興が徐々に進んでいるものの、極めて大きな被害から立ち直るには、まだまだ多くの歳月が必要なようです。

大震災以降、原子力発電所の機能が停止され、日本全土が電力不足に見舞われ、今年の夏は九州地方でも計画停電が実施されることになりました。節電するだけでは対応できない、つまり自然エネルギーの導入が追いつかない状況になったわけです。

産業用の電力は、使用時間帯を調節しても、供給しなければ生産がストップしますので、節電にも自ずから限度はありますが、学校や家庭用の節電はこまめな工夫次第で効果が出る可能性があります。

電力を使用した冷房も、一般化して40年にもなりません。それ以前は、何等かの方法で少しでも暑さをしのぐ工夫をしたわけです。過去の工夫を思い出しながら、新たなアイデアで電力消費を少しでも抑制していきたいと思えます。

芸術工学研究院の平成23年度電力消費量は、前年度の88%でありました。この節電率は九州大学の部局で最も高いものです。今年度もこまめな工夫を結集して、節電に努める所存です。

本報告書が、節電も含めた大橋キャンパスの環境活動の実践を示すと共に、地域社会の環境活動と連携する契機になれば幸いです。

平成24年7月

芸術工学研究院長 石村真一

部局概要

部局名 九州大学芸術工学部

所在地 〒815-8540 福岡市南区大橋4丁目9-1
TEL 092-553-4400 (番号案内)
URL <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

組織



大学院芸術工学府

芸術工学専攻	
コース	講座
デザイン人間科学	生理人類学
	知覚心理学
	生体情報数理学
デザイン人間科学国際 (博士後期課程)	生理人類学
	知覚心理学
	生体情報数理学
	国際教育(特定教育研究講座)
コミュニケーション デザイン科学	視聴覚情報融合
	音響情報伝達
	画像情報伝達
環境・遺産デザイン	遺産理論
	環境・遺産マネジメント
	環境デザインテクノロジー
コンテンツ・ クリエイティブデザイン	芸術表現学
	デジタルコンテンツデザイン
	クリエイティブデザイン
デザインストラテジー専攻	
	デザインビジネス
	ストラテジックアーキテクト
	ストラテジックエクスペリエンス

大学院芸術工学研究院

(平成21年7月1日再編)

部 門
デザイン人間科学
コミュニケーションデザイン科学
環境・遺産デザイン
コンテンツ・クリエイティブデザイン
デザインストラテジー
健康科学センター大橋分室
国際教育センター

芸術工学部

学 科	学 科 目
環境設計	環境設計学
工業設計	工業設計学
画像設計	画像設計学
音響設計	音響設計学
芸術情報設計	芸術情報設計学
共通学 科 目	システム工学
	情報工学

構成員 教職員・学生 : 1,538名 (平成24年3月現在)

[内訳] 教職員 169名 (教員: 97名 職員: 68名 研究員: 4名)
大学院生 476名 (修士課程: 338名 博士課程: 138名)
学部学生 893名 (1~3年次: 619名 4年次以上: 274名)

環境報告対象の組織 大橋地区 (芸術工学系)

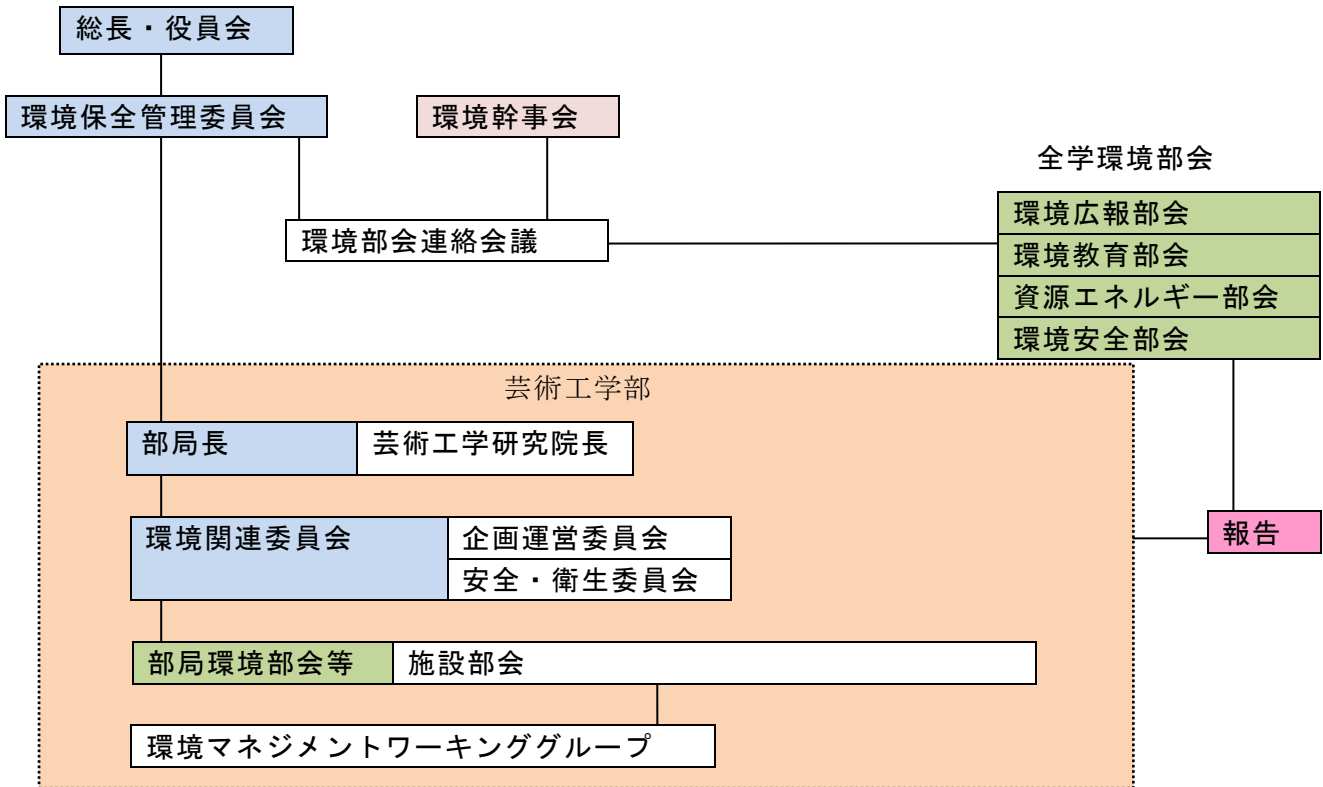
報告期間

「環境報告書 2012」に記載している内容は、主に2011年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の取り組み、実績値を中心にまとめており、一部に、平成24年3月31日以前及び平成24年4月1日以降7月までの取り組みや活動データが含まれています。

環境マネジメント体制

環境保全管理委員会と連携し、大橋キャンパスにおける環境マネジメントシステムを推進するため、施設部会の下に「環境マネジメントワーキンググループ」を設け、環境に係る事項を集中的に取り扱うこととしました。

環境マネジメントワーキンググループは、環境保全管理委員会委員をグループ長とし、施設部会会員2名、関係部署の担当職員数名で構成しています。



環境マネジメント体制における役割

1. 企画運営委員会
運営に関する重要事項を審議する。
2. 安全・衛生委員会
施設内外の安全・衛生に関する事項を総合的に調査・審議する。
3. 施設部会
環境の保全に関する事項を所掌する。内部環境監査チームを設置し内部環境点検を行う。
4. 環境マネジメントワーキンググループ
廃棄物の分別（ごみの分別に関する内部環境点検含む）、再資源化、削減等に関する事項、資源・エネルギー削減等に関する事項、劇・毒物・廃液等の化学物質の管理等に関する事項及びその他の環境マネジメントに関する事項を所掌し、環境配慮の取組を進めるための内部体制や手続き等の環境マネジメントについて検討する。

環境活動と目標

平成 23 年度の具体的な取り組みと平成 24 年度の目標を以下に示します。

事 項	具体的な取組	平成24年度目標
組織・体制	環境報告書の作成を行った。	環境報告書を作成提出する。
温暖化対策	室温を夏季は28度、冬季は19度を目標に設定の呼びかけを行い節電に努めるとともに、クールビズの励行を実施した。	室温の設定を、冷房28度、暖房19度を目標に呼びかける。 職場安全環境に配慮しつつ各部屋の蛍光灯の間引きを行い節電に務める。 夏季の電気量について節電対策で前年比5%削減を目標とする。
資源・循環	ごみの分別・減量の方法を検討し、ゴミ表示の見直し、再配置を行った。 キャンパス内に放置された自転車の整理を行った。	ごみの分別・減量をさらに推進する。 放置自転車の整理については引き続き継続する予定
グリーン購入	環境配慮型製品を優先的に購入する「グリーン購入」を進めた。	九州大学グリーン調達方針に基づく調達を行う。
化学物質管理	化学物質（薬品）管理システムの運用に従い薬品の在庫状況を確認した。	薬品の在庫状況を調査し、不要な薬品類の処分を行う。

環境関連の授業科目数

平成23年度に開講された環境関連の授業科目数（キーワードは、エネルギー、資源、地球汚染等の地球環境に限定）は下記のとおりです。芸術工学部においては、学部で9科目、学府で5科目の授業が行われました。

芸術工学部 9科目

科目名	キーワード
環境社会経済システム論	持続可能性・経済・消費者行動・企業行動・政策
環境設計フィールド基礎演習	自然環境・緑・保全・社会環境・居住・福祉・建築環境・力・光
環境材料論	建築材料・地球環境問題・建築素材と納まり
ランドスケープデザイン論 ランドスケーププロジェクト	ランドスケープ・フィールド調査・都市施設・都市緑地・都市公園・田園環境・幾何級数的成長・共有地の悲劇・近代的自然観・エコロジズム・自然の権利・里山・棚田・アメニティ・保護・保全・開発・レクリエーション・平戸・港市・風景画・文化遺産・教会建築
環境保全論	環境保全・植生・環境情報・里地・里山・湿地ボランティア
環境人類学	適応・文化・文化生態学・生態人類学・政治生態学・環境問題・開発援助
緑地環境設計論	ランドスケープ・景観計画・Behavioral Approach・緑地・オープンスペースネットワーク・アメニティ・自然環境・自然公園・計画単位・環境影響評価・景観法・環境基本法・都市公園・都市緑地・水辺環境・親水性・庭園・景観構成要素・観光とリゾート・人間行動・住民参加・緑地環境調査
都市環境設計論	都市計画法・建築基準法・まちづくり・景観・文化遺産・観光

芸術工学府 5科目

科目名	キーワード
自然・森林遺産論	環境保全・景観保全・森林保全・生物多様性・市民参加・環境教育・農山村・地域計画
環境・遺産デザインプロジェクト	農業・林業・環境・地域遺産・生活システム・生活文化
ランドスケープマネジメント	ランドスケープ・アーキテクチャ・緑地・オープンスペース・環境共生・景観保全・整備・人間行動・サステナビリティ 景観保全・整備
持続社会マネジメント	環境共生・地域形成・NPO・協働・パートナーシップ・エンパワーメント
国際協カマネジメント	文化・開発援助・開発理念・NGO・農村開発・貧困・途上国

環境に関する研究組織

芸術工学研究院では環境計画部門において環境に関する研究を行っています。他の芸術系学部や理科系学部にはない総合的な分野が多く含まれています。

■環境計画部門の概要

望ましい生活環境の形成・持続のために、人間と環境の織りなす諸関係の歴史・哲学・人類学的考察ならびに自然環境の保全・組成に関する研究、生活環境の防災・調整・経済システム、環境諸要素の設計・生産システムの研究を行うとともに、地域・都市・建築及び自然・歴史環境の計画・設計に関する実践的研究を行います。

■研究内容

講座名	研究内容
環境論	人間と環境の織りなす諸関係の歴史的・哲学的・人類学的考察、自然環境の組成的・保全的考察に基づき、望ましい環境の形成に関する高度な教育研究を行う。
環境計画設計	望ましい生活環境の形成に必要とされる地域環境、都市環境、建築環境、自然環境、歴史環境の計画・設計について、実践的見地から高度な教育研究を行う。
環境システム	望ましい生活環境の持続に必要とされる防災・調節システム、環境諸要素の設計・生産システム、適正な経済システムについて、高度な教育研究を行う。

■主な研究施設

施設名	施設紹介
環境実験棟	気圧、温度、湿度、気流、照度、水圧等を広範囲に制御できる人工気候室9室（総床面積744m ² ）からなる特殊実験施設（内2室は別棟）である。本実験施設は昭和43年、九州芸術工科大学が「技術の人間化」を旗印として開学された当初から付置され、平成12年度には大幅改修がなされた。ヒトの環境適応能を詳細に検討することにより、健康で快適な生活環境や製品のあるべき条件を明らかにすることを目的とした世界最大規模の実験施設である。
室内気候実験室	住宅、オフィス等の温熱環境の設計・制御・計測のための基礎的資料の収集を目的として2号館1階に設置されている44m ² の実験室で、気温及び湿度の調整装置が設備されている。

「環境月間」行事等

1 放置自転車等の撤去

自転車やバイクが駐輪場以外の場所に放置されてそのままの状態になっていたものを、一定の期間内に移動をする旨のタグを貼り付け、期間を超えても駐輪場に移動されなかったものについては撤去処分を行いました。



2 節電対策の実施

夏季の冷房期間及び冬季の暖房期間には、電力使用量を抑えるために室内温度の設定を徹底し、省エネ対策に努めました。大橋地区の電気契約については通常900ワットですが平成23年度夏季は九州電力より節電要望があったため10%マイナスの目標を立て、その範囲内で収まるように節電を励行しました。

3 夏季の軽装（クールビズ）の励行・冬季のウォームビズの励行

地球温暖化防止及び省エネルギーに資するため5月1日から10月31日まで、可能な限りクールビズの励行を行いました。なお、来客者等には掲示により理解を得るように努めました。また、冬の地球温暖化防止対策について暖房を可能な限り使用せず、衣服で調節するよう励行しました。

4 スロープの設置

バリアフリーに対応するため、8号館と産学連携センターの間の通路の2箇所にもスロープ設置工事を行いました。

